

実習・実技、企業連携等の取り組み

授業科目名	臨地実習	授業時数又は単位数	180時間（4単位）
実施期間	・平成28年5月21日～平成28年10月12日 ・平成28年11月22日～平成28年12月20日 それぞれの間4当直		
実習・演習等の目的及び概要	医療に携わる人間として、また救急救命士としてあるべき命に対する尊さ、救命への使命感を持ち、救急救命士として必要な観察・判断・処置能力、特定行為に関連する手技の習得及び患者そしてその家族に対する接遇要領等を学ぶことにより、実際の医療を肌で感じとり医療人としての人間形成を目指す。		
企業等との連携の基本方針	救急救命士養成所の臨床実習施設における実習要領「臨床実習施設における実習の細目」及び「臨床実習項目別の標準経験目標数」に基づき、救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係わる技能の習得を主体とし、更に、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて、診療の補助に対する理解を深める機会とする。		
企業等との連携内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 心肺機能停止患者に対する観察及び救命処置を理解する。 2) 骨折、心筋梗塞、脳血管障害、出血、異物等に対する観察及び救命処置を理解する。 3) 心電図、パルスオキシメーター値、血圧測定法、心音、呼吸音聴取等諸検査について理解する。 4) 救急患者に対する手術を見学する。 5) 医師、看護師等医療従事者の業務及びその連携について理解する。 6) 症例検討会に参加する。 7) 救急患者及びその家族に対する接遇について理解する。 8) インフォームド・コンセントの重要性を理解する。 9) その他、救急救命士として必要な事項を理解する。 		
学修成果の評価方法	上記1)～9)実習項目毎に、身だしなみ、態度、積極性、協調性、知識、技能、報告書等、総合評価の8要素で評価する。評価は「A」・「B」・「C」・「D」で行い、「C」以上を合格とする。実習の成績評価は、実習前教育及び実習後教育、実習施設の評価、実習日誌及び実習後レポートを総合し評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
実習前1ヶ月前 週6回×4週	実習前教育 シミュレーション実習Ⅱ・Ⅲにより実習生として、また救急救命士としての心構えを身に付けるとともに、救命のプロとしての基本を学ぶ。また、各実習領域における臨床現場で必要となる知識と技術の確認を行う。	学内
8日間	<p>【実施するもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの観察（血圧、脈拍、呼吸数など） 2. 身体所見の観察（視診、触診、聴診など） 3. モニターの装着（心電図、パルスオキシメーターなど） 4. 酸素投与 5. バックマスク法 6. 食道閉鎖式エアウェイ、ラリゲアルマスク 7. 気道内吸引 8. 喉頭鏡の使用 9. 胸骨圧迫マッサージ 10. 末梢静脈路確保 11. 点滴ラインの準備 12. 緊急薬剤（エピネフリン）の使用 13. 除細動 14. ナーシング・ケア（清拭、体位変換など） 15. 精神科・小児科・産婦人科領域の処置 <p>【介助に留めるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気管内挿管 2. 輸液・輸血 3. 緊急薬剤（エピネフリン以外）の使用 4. 創傷・骨折の処置 5. 胃チューブ挿入 	救急救命センター 集中治療室 冠疾患集中治療室 手術室
1日間	実習後教育 実習日誌・レポート及びチェックリスト表の確認を行い、学生同士の実習内容シェアリングから報告会を行う。また、最終評価を行う。	学内
連携する企業等	東京女子医科大学 東医療センター 東京医科歯科大学付属病院 埼玉医科大学総合医療センター	